

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
ET45H017	児童心理療法特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)(Child Psychotherapy(Support Theory and Applications in Social Welfare Area))					特別支援教育						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1	大学院教育学研究科			氏名 古賀精治 E-mail skoga@oita-u.ac.jp 内線 7521						
授業の概要	「LD・ADHD等の心理的疑似体験プログラム 第3版」(日本LD学会)を教材として使用する。読む、書く、計算する、聞く、話す等の困難さによる苛立ちや不安等を疑似体験した後、グループでの話し合いを通じて困難さの背景について理解を深め、LD等のある児童生徒のための配慮事項や支援の手立てを創意・工夫できる力を培う。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10						
目標1	LD等のある子どもが学校生活で体験していると思われる困難さに伴う感情やストレスについて述べるができる。											
目標2	LD等のある子どもにどのような支援ができるのか、どのように接すればよいかについて立案することができる。											
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容	1 読む - 図と地の弁別 - 2 読む - 言葉の句切りが分からない - 3 読む - 読んでも理解できない - 4 書く - 図形や漢字の視写 - 5 書く - 漢字を覚えて書く - 6 書く - 単語や文章の視写 - 7 計算する - 計算の桁がずれる - 8 計算する - 計算の手順が理解できない - 9 聞く - 刺激の多い場面での指示理解 - 10 聞く - 複数の口頭指示による作業 - 11 聞く - 複雑な説明の理解 - 12 話す - 説明内容をうまく伝えられない - 13 話す - 適切な言葉がすぐに出ない - 14 話す - 知っているが上手に説明できない - 15 不器用さ - 筆記がうまくできない -											
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	バズ・グループ。			工夫	その他の						
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	授業内容に関わる論文等を精読しておくこと。										
	事後学修	学習した内容を振り返り、授業で扱った内容や関連する課題について論文、書籍、インターネット等により「調べ学習」に取り組むこと(15h)。										
教科書	特に使用しない。適宜、必要に応じてプリントを配布する。											
参考書	「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編」(平成30年3月 文部科学省) 「新訂 障害児・障害者心理学特論」(平成25年3月 日本放送大学教育振興会)											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	討論への参加度や貢献度等の平常点	60%										
	学期末レポート	40%										
注意事項	なし。											
備考	なし。											
リンク	URL											